



第26回スピーチコンテスト

平和へのメッセージ from 知覧

戦後70年 平和を語り継ぐ都市『南九州市』

「あした いのち かがやけ」のテーマのもと、命の尊さ、平和への大切さを伝える「第26回スピーチコンテスト平和へのメッセージ from 知覧」が、戦後70年となる節目の日である8月15日、終戦の日に知覧文化会館で開催され、市内外の多くの方が来場されました。

今回は全国から5382点（うち小学生による平和作文コンテスト478点）という多数の作品が寄せられました。この中から1次・2次審査を通過し、最終審査に残った12人が命や平和の大切さについて発表しました。どのスピーチも素晴らしい内容で、戦争に関するもの、身近な家族や命をテーマとしたものなどがあり、会場の多くの皆さんは発表を熱心に聞いていました。



▲素晴らしいスピーチをしてくださった出場者の皆さん。

審査結果

中学生の部

- 最優秀賞 川上 友里さん 鴨池中学校3年（鹿児島市）
- 優秀賞 松久保 幸希さん 鹿児島修学館中学校1年（鹿児島市）
- 特選 古田 大貴さん 志学館中等部2年（鹿児島市）
- 特選 迫口 優さん 荘中学校2年（出水市）

高校生の部

- 最優秀賞 山本 真理子さん 加治木高等学校3年（始良市）
- 優秀賞 大津 結女さん 加治木高等学校2年（始良市）
- 特選 佐藤 花さん 立命館慶祥高等学校2年（北海道江別市）
- 特選 本田 美なつさん 鶴丸高等学校3年（鹿児島市）

一般の部

- 最優秀賞 戸高 幸星さん 20歳（兵庫県神戸市）
- 優秀賞 奥村 美枝さん 55歳（鹿児島市）
- 特選 倉田 久子さん 54歳（愛知県名古屋）
- 特選 熊谷 紀代さん 74歳（福岡県小郡市）

小学生の部

- ※市内の小学生による平和作文コンテスト
- 優秀賞 菊永 真瑚さん 松山小学校6年
- 特選 中村 優希さん 別府小学校6年
- 特選 宮ノ前 邑月さん 清水小学校6年
- 特選 吉峯 幸翼さん 中福長小学校6年
- 特選 牟田口 仁さん 松山小学校5年
- 特選 小原 一敬さん 川辺小学校5年
- 特選 折田 愛奈さん 川辺小学校5年
- 特選 寺田 陽菜さん 顕娃小学校5年



高校生の部で最優秀賞に選ばれた山本真理子さんのスピーチを紹介します。



【高校生の部】最優秀賞
山本 真理子 さん

平和を紡ぐ

古い引き出しの中にひととき大
事そうにしまつてある包み紙。包
みを開くとそこには色あせた布に
赤い刺繍の玉どめ。築百年を超え
る祖父母の家で見つけたそれは、
私が初めて目にした祖父の「千人
針」でした。

みなさんは、「千人針」を知って
いますか。それは、戦地へ赴く兵
隊さんの幸運を祈つてつくられた
一枚の布です。千人もの道行く人
に何カ月もかけて赤い糸で玉どめ
をお願いしたものであったと、祖母

は言います。

「武運長久」「武名百世」
千人針に刻まれたその文字から、
どうか無事に帰ってきて欲しいと
いう強い思いがひしひしと伝わっ
てきます。氣付けば千人針を持つ
私の手は震えていました。大切な
人を戦地に送り出す…。長い時間
をかけてこの千人針を作った身内
や親類の思いは、いかばかりだっ
たでしょうか。亡き祖父が、千人
針を自らの腰に巻いて出征したと
生前、お盆に集まる家族を前に語っ
てくれたのを覚えています。

昭和18年10月、学徒出陣し、海
防艦に乗り込んだという祖父。死
ぬときは共に、と誓う思いで海軍
を志願したそうです。昼夜を間わ
ず、二、三時間おきに敵の見張りを
していたといいます。一メートル
横で機銃掃射に撃たれた戦友。血
だらけの甲板を滑りながら歩く仲
間。友の死を目の前にながらも
応戦し続けなければならなかった
祖父。晩年になつても脳裏に焼き
ついている残像の数々。その恐怖
と胸の痛みは、私の想像を絶する
ものです。失った大切な仲間の一
人一人の腰には、故郷で心からの
無事を願う千人のメッセージが巻
かれていました。

帰って来なかつた千人針…。家
族や友人の切実な祈りに思いを馳

せる時、私は涙せずにはいられま
せん。戦争は簡単に人の命を奪い
ます。しかし、大切な人を失った
者の悲しみは、深い深い心の傷は、
一生かかっても癒えることはありません。
千人針と共に帰らぬ人と
なつた祖父の兄。その兄の名をお
墓の前で呼ぶ祖父の姿を私は忘れ
ることができません。私はこの千
人針と出会つて、戦争の犠牲者は、
戦場で争つた兵士だけではないと
いうことに改めて氣付かされました。
そして、今までの戦争に対す
る認識の甘さに恥じさせられました。
同じ時代を生きた全ての人が被害
者なのです。未来の平和を願ひ
死んでいった兵士たちと、その腰
に巻かれた千人の思い。今を生き
る私たちは、その思いをしつかり
と伝えていかなければなりません。
兵士たちが命がけで守つた今を生
きているのですから。

今年88歳になつた祖母は、よく
私たち孫に言います。
「これからは、あんたたちが良い世
の中をつくっていかんとね」

と。それは、女学校時代、学徒動
員により鹿屋の海軍工廠で兵器磨
きに明け暮れ、勉強の機会を奪わ
れた祖母の言葉だからこそ、心に
響きます。戦争を知る世代が少な
くなつている中、私たちが平和に
ついてしっかりと学習しなければ、

同じ過ちを犯しかねません。です
から、今を生きる私たちの責任は
大きいのです。過去の多くの犠牲
の上にこの平和が成り立っている
ということをお忘れてはなりません。

国際情勢に緊張が高まる今、はっ
きりと見えてきた夢があります。
それは、教員となつて多くの子ど
もたちに命ある喜びと、平和のあ
りがたさを伝えていくこと。教育
を受ける権利が保障されている現
在の日本にあつて、国際交流が盛
んな現在だからこそ、異なつた意
見や価値観を相互に受け入れ合う
事ができる、そんな寛容な人材育
成が求められると思います。その
ためには、私自身が世界に視野を
広げ学ばなければなりません。過
去の悲しい歴史も辛い現実だから
と、真実を知ることが拒んではい
けません。教科書や資料集に載っ
ている年号や出来事を表面的に覚
えるのではなく、その向こ
うにある兵士や家族の、平和を祈つ
てやまなかつた思いを真に受けと
め伝えていく。それが私の使命で
す。そして、それは

「世の為、人の為に頑張れる人にな
りなさい」が口癖だつた祖父の願
いを全うすることでもあります。

千人針。それは、時空を超えて、
平和を紡ぐ大切さを静かに語りか
けてくれます。